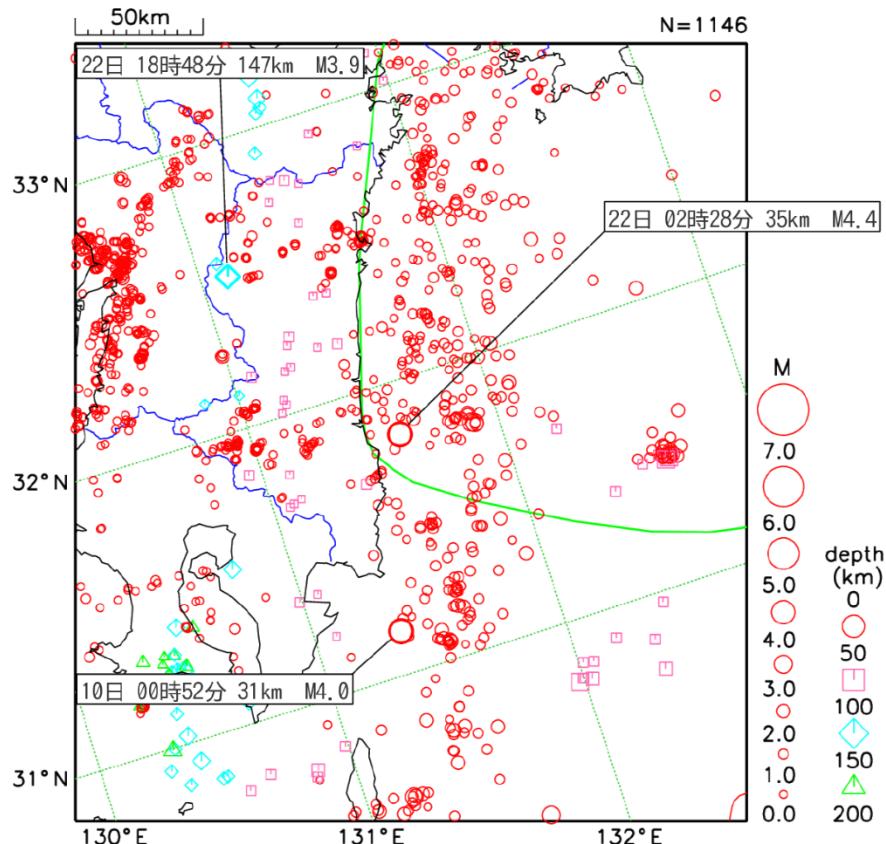


宮崎県の地震活動概況（2024年11月）

令和6年12月5日
宮崎地方気象台

【地震活動の概要】

11月に宮崎県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は4回（10月は6回）でした。



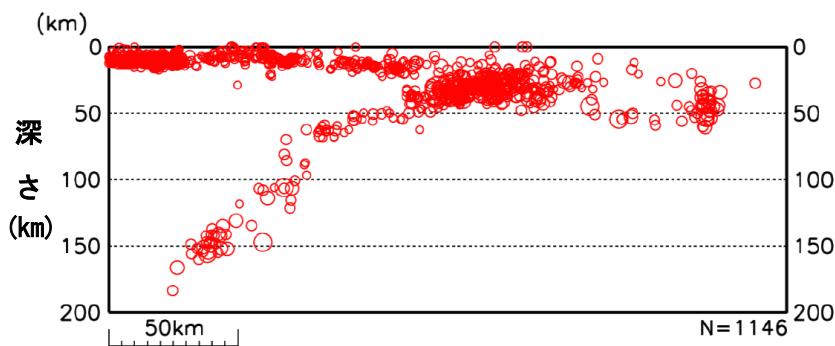
震央分布図（2024年11月1日～30日、M0.0以上、深さ200km以浅）

地震の規模（マグニチュードM）は記号の大きさで、震源の深さを記号と色で示しています。

緑色の線は南海トラフ巨大地震の想定震源域を示しています。

宮崎県で震度1以上を観測した地震に吹き出しをつけています。

17日に奄美大島北東沖で発生した地震については範囲外です。



断面図（震央分布図の投影、深さ200km以浅）

国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

10日 大隅半島東方沖を震源とする地震

10日 00時52分に発生したM4.0（深さ31km）の地震により、宮崎県串間市、鹿児島県の鹿屋市、志布志市で震度2を観測したほか、宮崎県、鹿児島県で震度1を観測しました（図1）。

今回の地震の震源付近（図3領域b）は、日頃から地震活動が見られる領域で、最近では、2024年8月22日にM4.1の地震（深さ29km、最大震度1）が発生し、県内では日南市、串間市で震度1を観測しました。

また、2022年10月2日には、M5.9の地震（深さ29km、最大震度5弱）が発生し、宮崎県日南市で震度5弱を観測しました（図2～4）。

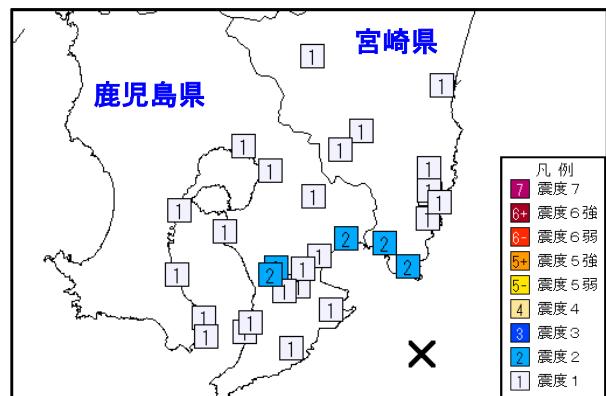


図1 震度分布図（観測点別、×：震央）

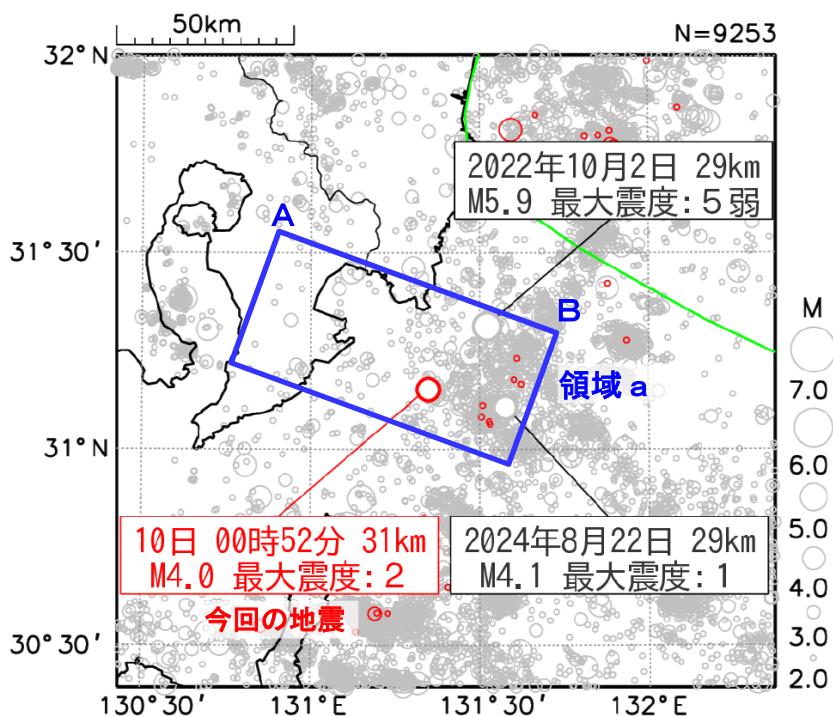


図2 震央分布図
(1997年10月1日～2024年11月30日、
深さ0～100km、M≥2.0)

※2024年11月の地震を赤色で表示

緑色の線は南海トラフ巨大地震の想定震源域を示しています。

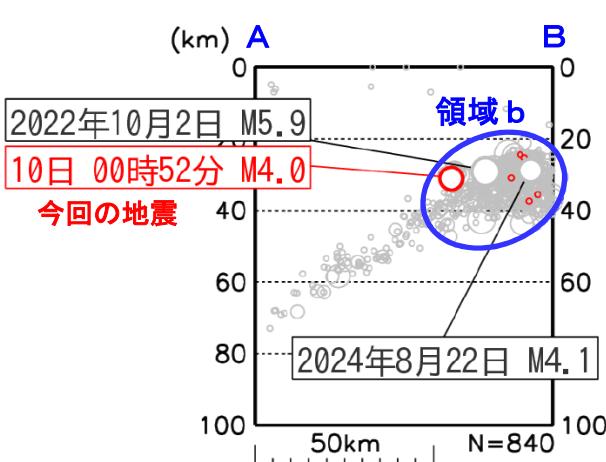


図3 図2領域a内の断面図（A-B投影）

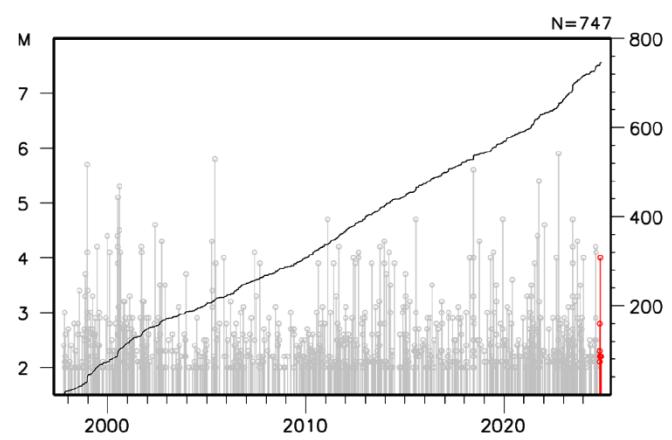


図4 図3領域b内の地震活動経過図
および回数積算図

17日 奄美大島北東沖を震源とする地震

17日 21時16分に発生したM5.9の地震により、鹿児島県奄美市で震度3を観測したほか、九州地方、中国地方、四国地方で震度2~1を観測しました。県内では、宮崎市、日南市、串間市で震度2を観測しました（図5）。

今回の地震の震央付近（図6領域a）は、日頃から地震活動がみられる領域で、最近では、2024年4月16日にM5.6の地震（最大震度2）が発生し、県内では、日南市、串間市、都城市、小林市、高千穂町で震度1を観測しました。

また、2000年6月6日にM6.2の地震（最大震度3）が発生し、県内では、日南市、高千穂町で震度3を観測しました（図6～7）。

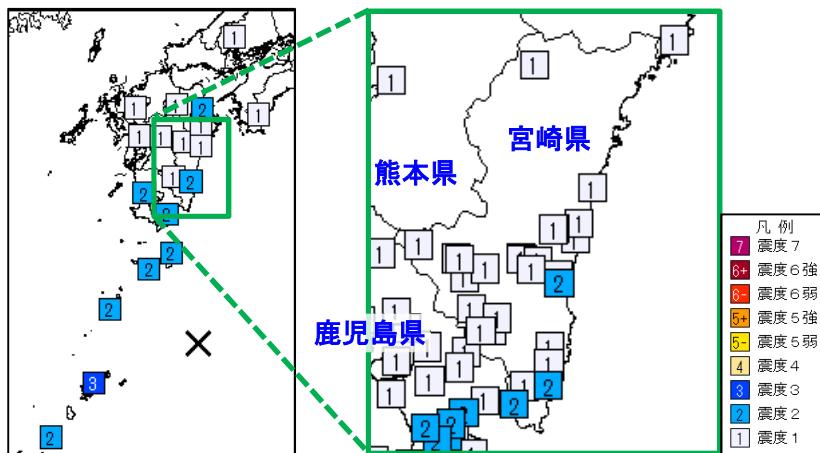


図5 震度分布図（左図：地域別、右図：観測点別、×：震央）

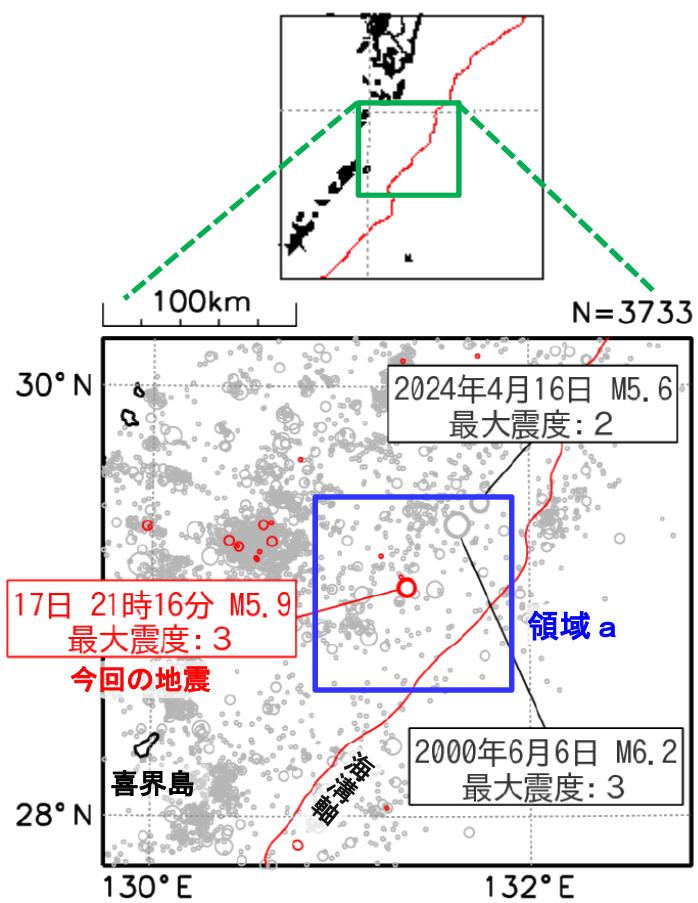


図6 震央分布図
(1997年10月1日～2024年11月30日、
深さ0～100km、M≥3.0)
※2024年11月の地震を赤色で表示

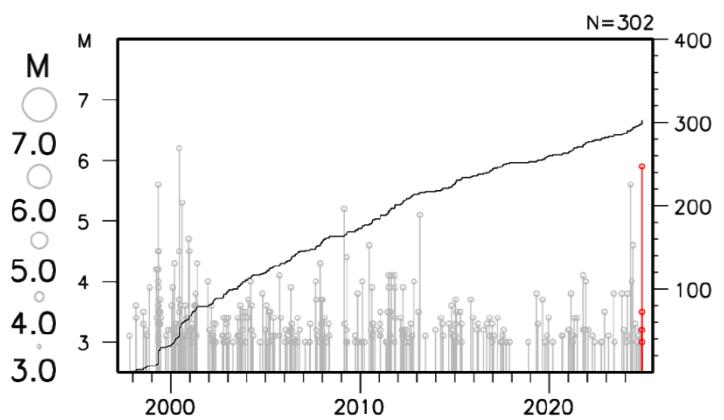


図7 図6領域a内の地震活動経過図
および回数積算図

22日 日向灘を震源とする地震

22日 02時28分に発生したM4.4の地震（深さ35km）により、宮崎県宮崎市で震度3を観測したほか、宮崎県、鹿児島県、熊本県、大分県で震度2～1を観測しました（図8）。

今回の地震の震源付近（図10領域b）は、2024年8月8日に発生したM7.1の地震（深さ31km、最大震度6弱）以降、最大震度1以上を観測した地震が11月30日までに35回発生しています。8月8日のM7.1の地震発生直後に比べると地震の発生回数は減っていますが、地震活動は継続しています（図9～11）。

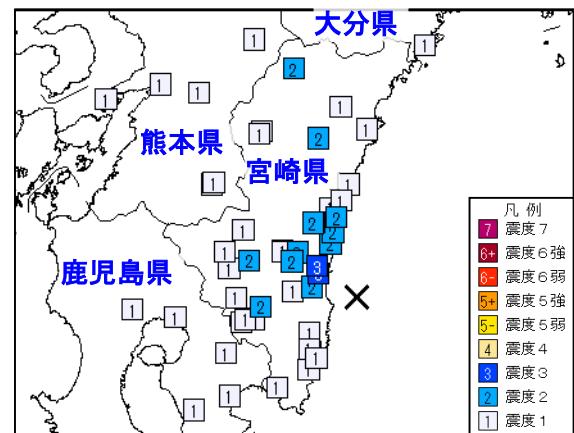


図8 震度分布図（観測点別、×：震央）

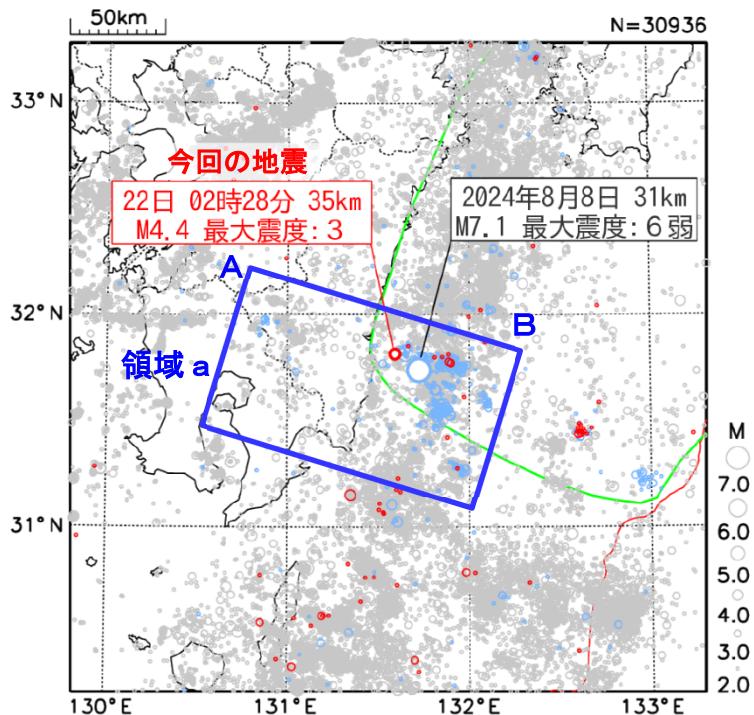


図9 震央分布図

(1997年10月1日～2024年11月30日、
深さ0～100km、M≥2.0)

※2024年11月の地震を赤色で表示

緑色の線は南海トラフ巨大地震の想定震源域を示しています。

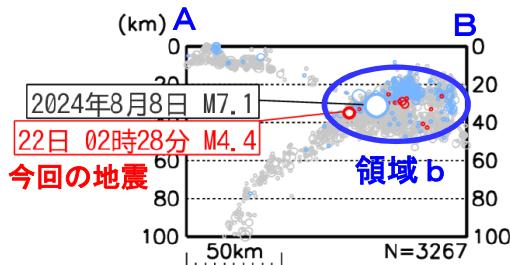


図10 図9領域a内の断面図（A-B投影）

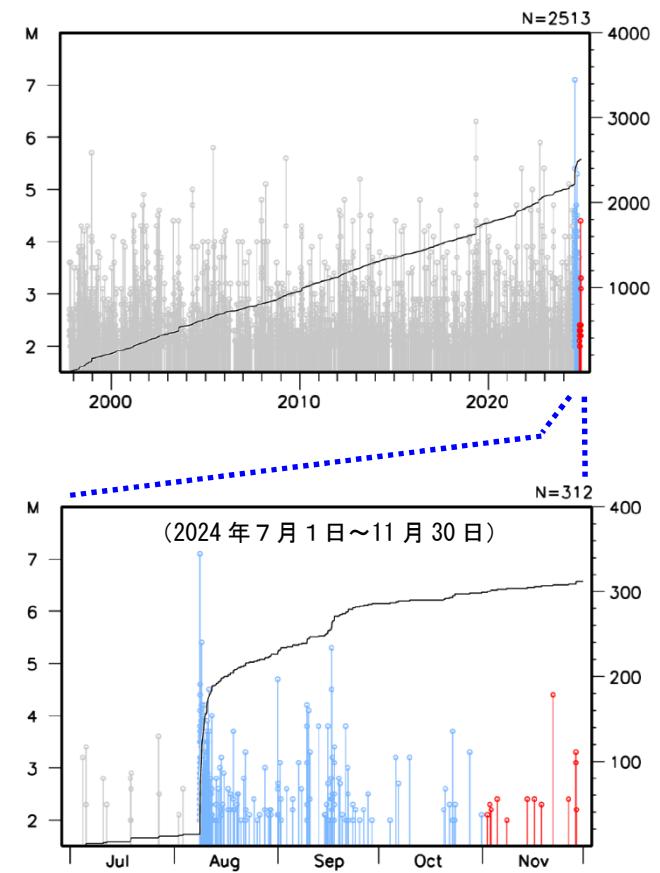


図11 図10領域b内の地震活動経過図
および回数積算図

22日 宮崎県北部山沿いを震源とする地震

22日18時48分に発生したM3.9の地震（深さ147km）により、宮崎県の西都市、川南町、都農町で震度1を観測しました（図12）。

今回の地震の震源付近(図14領域b)では、2018年12月31日にM3.7の地震(深さ125km、最大震度1)が発生し、県内では延岡市で震度1を観測しました(図13~15)。

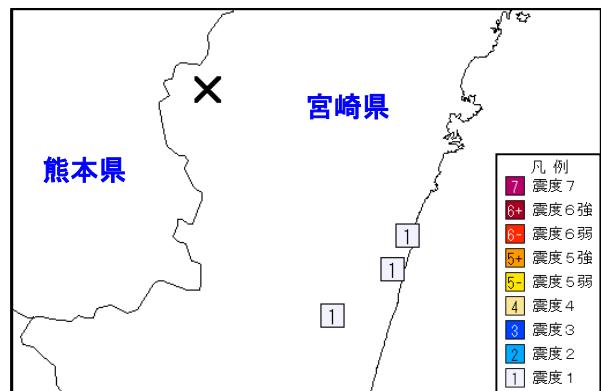


図 12 震度分布図 (観測点別、× : 震央)

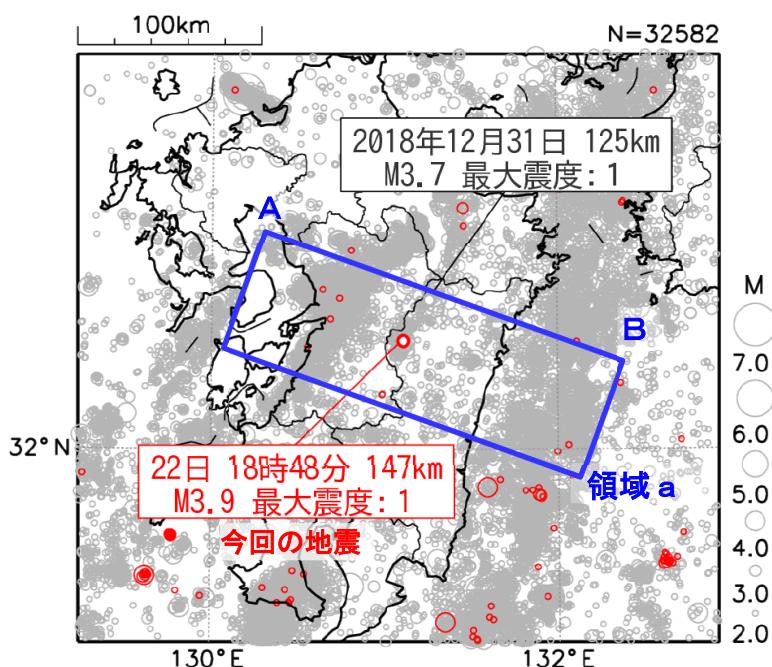


図 13 震央分布図

(1997年10月1日～2024年11月30日、
深さ0～180km、M≥2.0)

※2024年11月の地震を赤色で表示

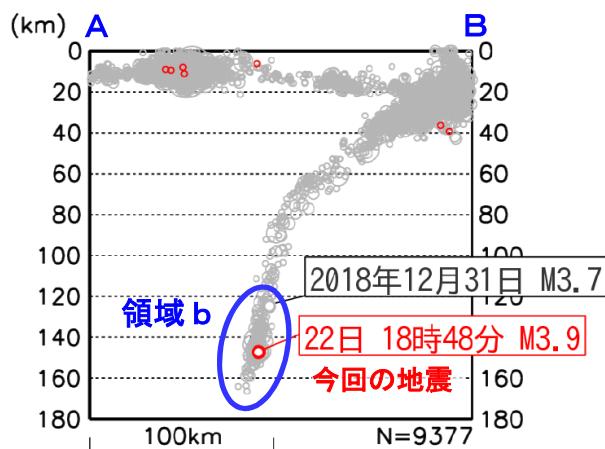


図 14 図 13 領域 a 内の断面図 (A-B 投影)

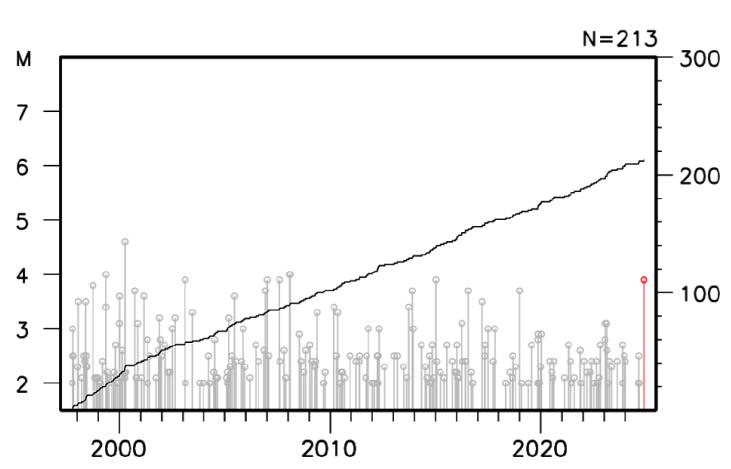


図 15 図 14 領域 b 内の地震活動経過図
および回数積算図

宮崎県内で震度1以上を観測した地震の表（11月1日～30日）

震源時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度					
2024年11月10日00時52分	大隅半島東方沖	31° 09.1' N	131° 20.8' E	31km	M4.0
震度 2	：串間市都井＊, 串間市役所＊				
震度 1	：宮崎市松橋＊, 日南市油津, 日南市吾田東＊, 日南市南郷町南町＊, 日南市中央通＊ 日南市北郷町郷之原＊, 都城市菖蒲原, 都城市山之口町花木＊, 小林市真方				
2024年11月17日21時16分	奄美大島北東沖	29° 03.8' N	131° 21.0' E	80km	M5.9
震度 2	：宮崎市松橋＊, 日南市南郷町南町＊, 串間市役所＊				
震度 1	：西都市上の宮＊, 西都市聖陵町＊, 高鍋町上江＊, 新富町上富田, 宮崎都農町役場＊ 高千穂町三田井, 宮崎市霧島, 宮崎市高岡町内山＊, 日南市吾田東＊, 日南市中央通＊ 日南市北郷町郷之原＊, 串間市奈留, 国富町本庄＊, 綾町南俣健康センター＊ 綾町役場＊, 都城市菖蒲原, 都城市山之口町花木＊, 都城市山田町山田＊, 小林市真方 小林市役所＊, 小林市野尻町東麓＊, えびの市加久藤＊, 三股町五本松＊, 高原町西麓＊				
2024年11月22日02時28分	日向灘	31° 48.8' N	131° 35.5' E	35km	M4.4
震度 3	：宮崎市霧島, 宮崎市松橋＊				
震度 2	：西都市上の宮＊, 西都市聖陵町＊, 高鍋町上江＊, 新富町上富田, 高千穂町三田井 宮崎美郷町田代＊, 宮崎市高岡町内山＊, 宮崎市清武町船引＊ 宮崎市佐土原町下田島＊, 国富町本庄＊, 都城市山之口町花木＊, 小林市野尻町東麓＊				
震度 1	：延岡市北方町総合支所＊, 川南町川南＊, 宮崎都農町役場＊, 門川町平城東＊ 木城町高城＊, 椎葉村総合運動公園＊, 椎葉村下福良＊, 宮崎市田野支所＊, 日南市油津 日南市吾田東＊, 日南市南郷町南町＊, 日南市中央通＊, 日南市北郷町郷之原＊ 串間市役所＊, 綾町南俣健康センター＊, 綾町役場＊, 都城市菖蒲原, 都城市姫城町＊ 都城市山田町山田＊, 小林市真方, 小林市中原＊, 三股町五本松＊, 高原町西麓＊				
2024年11月22日18時48分	宮崎県北部山沿い	32° 31.8' N	131° 06.8' E	147km	M3.9
震度 1	：西都市上の宮＊, 川南町川南＊, 宮崎都農町役場＊				

使用した震源要素等は暫定値であり、後日修正することがあります。

＊は地方公共団体または、国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点です。

解説資料
宮崎地方気象台

津波情報等に活用する観測地点の追加について ～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）」沖合システムの活用開始～

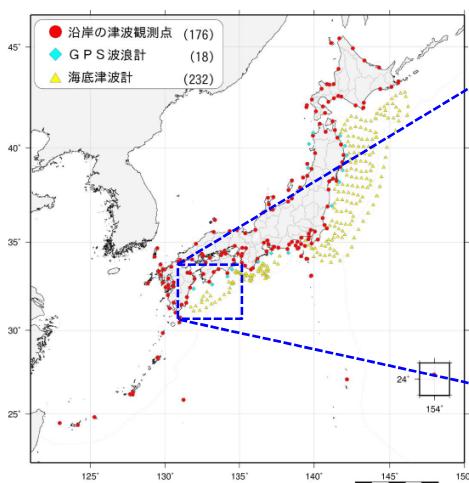
気象庁では、津波警報等の更新、津波情報の発表の迅速化や精度向上を図るため、「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）」沖合システムの津波観測データの活用を開始しました。

気象庁は、関係機関の協力も得て、沿岸の津波観測点や沖合に設置された海底津波計及び海底地震計の観測データを津波警報等及び津波情報の発表等に活用しています。

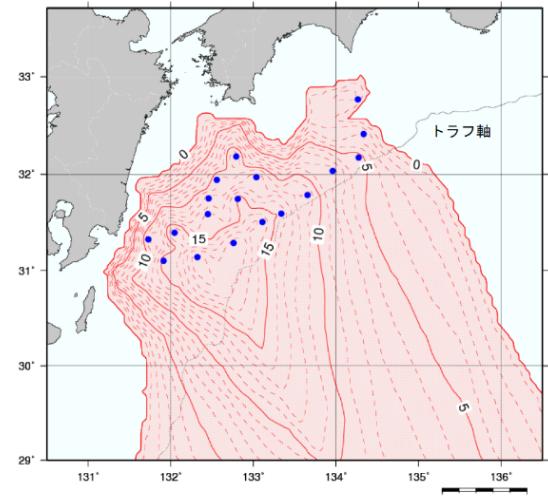
国立研究開発法人防災科学技術研究所は、南海トラフ地震発生時の被害軽減や防災科学技術の発展に貢献することを目指し、「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）」（※）を高知県沖から日向灘の海底に整備しています。このうち、7月に整備完了したN-net沖合システムについて、18地点に設置した地震計及び津波計による観測を行っています。

今般、気象庁において、N-net沖合システムの津波計についてデータの品質確認等を行い、令和6年11月21日12時から津波情報等への活用を開始しました。これにより、高知県から宮崎県にかけての沖合の津波の検知が最大で約20分早くなることから、津波警報等の更新及び津波情報の発表の迅速化や精度向上が図られます。

※「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）」は、南海トラフ地震の想定震源域のうち観測網が設置されていない西側の海域（高知県沖から日向灘）に整備中のケーブル式海底地震津波観測システムで、沖合システムと沿岸システムからなります。



津波の観測値を発表する津波観測点

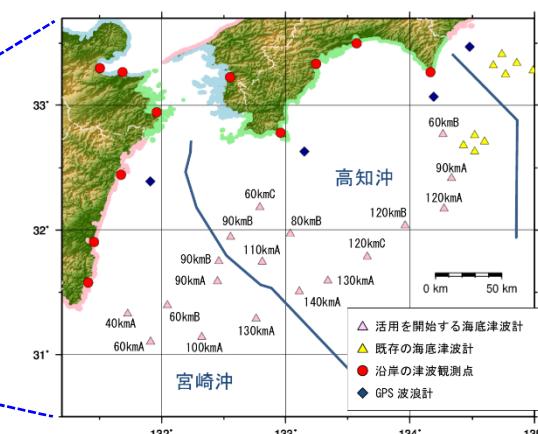


N-net 沖合システムの活用開始によって津波検知がより早くなる時間（単位：分）

青点は今回活用開始した津波観測点を示す。今回の観測地点の活用開始によって、赤く塗った領域で発生した津波の検知が現在より早くなる。

津波情報への活用を開始した海底津波計の分布図

※活用を開始した海底津波計の地点名称は「〇〇沖」を省略して記載しています。



詳細については以下のホームページをご覧ください

気象庁 「津波情報等に活用する観測地点の追加について」

https://www.jma.go.jp/jma/press/2411/14a/20241114_N-net.html

防災科学技術研究所 「南海トラフ海底地震津波観測網：N-net」

<https://www.seafloor.bosai.go.jp/N-net/>